

令和3年9月24日

9月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調。各共販所への入荷は例年より多いが、虫害材が入荷しており価格に差が出ている。材の引取が鈍く土場を圧迫している。8月の市は完売である。スギ柱材は16,500円/m³前後、スギ中目材は引合が弱くなり、12,500円前後で推移。スギ小径木は11,000円前後。ヒノキ柱材は23,000円前後、中目材は前月から上昇し26,000円前後、ヒノキ小径木は入札も少なく弱気配、9,000円前後で推移。

群馬では連日の降雨で原木入荷は少ない。特にスギ、ヒノキとも土台、母屋、桁用の4m、14~20cmの集荷が困難になっている。製材工場は受注残がありフル操業。スギの間柱、仮筋交い等を中心にパンク状態は継続している。間柱、仮筋交いは一時期に比べ少し緩和されたが、柱は依然注文が多く間に合っていない。製品価格は高値安定だが、一部で価格調整も散見され始めた。4mの90・105角は品薄で価格は少し強い。

2. 米材

産地では8月下旬になり、急激に秋の気候に移行し、山火事警戒レベルは全般に緩和された。しかしバンクーバー島南部のみ依然として高い山火事警戒レベルが続いており、Mosaic社の伐採制限が継続中である。約1ヵ月に及ぶ伐採制限により9、10月の出材が大幅に減少することが予想される。特にカナダの港頭在庫が減少している。米マツIS級並の9月対日輸出価格(推定)は前月比横ばいの\$1,110になった模様。一方、北米製材品市況はようやく8月最終週に下げ止まったものの在庫過多の状況は変わらない。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(8/27)は\$389/Mであり、7月末に比べ18.8%の下落となっている。

7月原木入荷は127千m³、船の入港ズレで久々の200千m³割れ。1~7月累計で1,391千m³(前年同期比25.7%増)、カナダからの入荷は前年同期比395%増。出荷は181千m³、1~7月累計は1,393千m³(同26.6%増)。在庫は減少し141千m³、在庫率は0.68ヵ月と1ヵ月を大きく切った。東京木材埠頭の入荷は27千m³(前月比31.8%増)、出荷は16千m³(同2.7%減)、在庫は40千m³(同33.8%増)。北米の製材企業がコンテナ不足でバルク船に切り替えて製品入荷が大幅に増加。海上運賃の上昇が止まらず、リーマンショック後の高値を更

新中。8月に入り中国での新型コロナ再拡大による港湾物流の混乱で滞船が発生し、運賃上昇に拍車をかけている。

3. 南洋材

サラワク州では8月に降雨が多くなったが、本格的な雨期入りではない。州内移動制限やインドネシアからの入国禁止等で労働者の確保が難しいため、原木生産量は上がっていない。FOB 価格はメランティのみ前月比\$10~15/m³の上昇。PNG では雨期と乾期がはっきりしない天候が続いた。FOB 価格は中国向けの上昇が続いている。それに追随してベトナム、韓国、日本向けの全てが上昇している。マレーシア、インドネシアからのコンテナ不足は依然解消されず、運賃は上昇中。9月予想の原木入荷は3千m³、出荷は2千m³、在庫3千m³。製材品入荷は33千m³。船の航海日数が延びている。フリー板の供給は増えており、需給が緩んできた。

4. 北洋材

産地の主力工場はアカマツ良材原木の不足で対日新規オファーは低水準である。日本側からの引合も少なく落ち着いた状況で、産地側の価格上昇も止まった。日本からの栈木の引合の急減と中国の買付の不振により小径木処理に窮する工場が今後出てくると予想される。アカマツ原板は9月以降の新規丸太入荷を踏まえて交渉が開始される。アカマツ野縁製品は産地でも高値警戒感が出ており\$900/m³がピークか。現地挽きアカマツ野縁製品は川上側の流通玉が増えており、不足感は完全に払拭されているが、110,000円/m³の価格帯がどこまで続くかは疑問である。国内製材工場では遅れていた原板契約残も入荷し、原板在庫は改善されている。受注は一般、DIYルートともに一服感が出ている。アカマツ栈木はトドマツに押されて全く売れない状況。9月予想の原木入荷は1千m³、製品入荷(東京+川崎)14千m³、出荷13千m³、在庫26千m³。

5. 合板

合板用原木の国産材は不足が深刻化しており、価格は全樹種で大幅な上昇。ロシア材は成約済み材が大幅に遅れている模様、価格は強含みが継続。カナダでは降水量が非常に少なく、乾燥状態が続いており、7月途中から伐採を停止。現地では原木在庫を数週間程度は確保しており、原木不足にはならない模様。

7月の国内合板生産量は27.7万m³、うち針葉樹合板は27.0万m³、出荷量は27.2万m³で在庫量は9.1万m³、うち構造用合板の在庫は7.4万m³でかなりの

低水準。針葉樹合板は各メーカーの低水準の在庫が続いており、納期にかなりの時間を要している。価格も値上りしており強気姿勢のまま。輸入合板は殆どの品目で強いタイト感が出ている。価格も常に上がっており、落ち着く気配がない。7月の合板輸入量は22.9万 m^3 で中国、ベトナム、マレーシア、インドネシアからの入荷は前月から全般的に増加。インドネシアでは依然原木不足が続いており、日本からの引合も強く合板価格は引き続き上昇。マレーシアではコロナ禍で従業員不足が深刻であり、生産性・採算を最優先する動きが見られる。日本を中心に引合は依然として強く合板価格は上昇。

6. 構造用集成材

8月ラミナ入港量は遅れていたコンテナが入港し量的には通常通り。来月より第3・四半期契約分が入港し始める。オファー数量は必要量の7~8割で、各集成材メーカーでは厳しいラミナ在庫の状況が年末まで続くだろう。第3・四半期契約はラミナ $\text{€}600\sim\text{€}650/\text{m}^3$ となり過去最高値である。そのラミナが9月より入港し、工場到着価格は90,000円/ m^3 前後になり、集成材原価は130,000円/ m^3 以上となる。輸入集成材も第3・四半期契約の $\text{€}850\sim\text{€}1,150/\text{m}^3$ のものが入港してくる。国内流通価格も130,000円/ m^3 以上になってくる。管柱のオファーが少なく、品不足が危惧される。年内に集成材の品不足解消は困難であると予想される。

7. 木材チップ

チップ原木は製紙・バイオマス用とも引合は強いが、発生、入荷ともに低調である。解体材は一部大手でボイラーの定期修理で入荷を抑制中、発生量は総じて良くない。製紙用の国内チップは総使用量が進まないため、配合率の関係で消費量は増えない。燃料用チップは大型定期修理が終了したが、各所のボイラーの定期修理があり、消費量は上向かない、在庫量は例年に比べて少な目の状況にある。

8. 市売問屋

材木店の仕事が少ないせいか、市場への来場者が減っている。材価が高いため必要買いの雰囲気が強くなっている。国産材、外材の構造材も高値で安定する感じである。値上げの激しかった5~7月の勢いは見られない。構造材の動きが静かになってきたのと同じく、羽柄材の動きも少なくなっている。

9. 小売

スギ柱、問柱は引き続き品薄状況、ヒノキ土台、柱は落ち着いてきた感がある。価格は高値保合。外材ではWW集成管柱の逼迫感が続いている。RW集成梁はプレカット工場で言われているような逼迫感はない。羽柄材は高値張り

付きだが、小売店はある程度在庫を確保し当用買いに徹している。スプルー
スの品薄と価格上昇でヒノキ枠材の引合が強い。依然として受注制限を行っ
ているプレカット工場が多い。8月に入り、木材よりも合板不足による影響が
出ている。町場の工務店には大きな動きは見られない。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和3年9月24日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	↗	↗	↗

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	↗
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	↗
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→			
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	↗
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗